

## 山行報告書

山行管理部

**土曜山行 龍王山 8月10日** CL:松本(光)SL原、森(保) 参加16名

鶴橋駅 8:18-柳本駅着 9:14-柳本駅 9:46 発-トレイル青垣 10:06

-龍王山 11:58-柳本駅着 13:54

夏の猛暑の中の龍王山暑いと宣言してたが予想以上の猛暑。コンクリートの上も山中也暑くて汗が吹き出る。龍王山頂上までは予定通りのコースで登りましたが、あまりの暑さと皆の体調も考え予定していた竹之内峠へは中止し龍王山から柳本駅へのピストンに変更。龍王山から竹之内へは谷ルールなので下りで涼んだらいいと考え企画したが予想外の暑さ。8月の山行はよくよく考えないと命の危険が。なんで、こんな暑いところに!と批判あり反省。

(松本(光) 記)

**公開山行 能勢妙見山 8月25日**

CL 太田 SL 山口、網、上野 参加者 36名 (うち一般2名)

阪急梅田駅 8:00 ~ 8:21 川西能勢口駅 8:24 ~ 8:51 妙見口駅

妙見口駅出発 9:05 初谷溪谷コース 途中 体操、点呼して出発 9:45

~ 12:10 能勢妙見山 (昼食、トイレ) 出発 13:15 能勢妙見山山頂より大堂越コース 14:40 解散 (駅前までは舗装道なので、手前の日陰で解散) 全員で妙見口駅まで歩く。

初谷溪谷コース。8月に入ってから、久々の涼しい山行でした。台風後、雨の多い日が続き 初谷川の水量が増え 徒渉が大変な所もありましたが、頼りになる男性陣 ありがとうございます。

下りの 大堂越コース。少々暑くなりましたが日陰での下山で良かった。

川西能勢口駅での乗り換え時間が3分しかなかったのですが、ご参加の皆様 ご協力 ありがとうございます。なお、今回 一般参加者で申し込まれた長田さんが、入会届を持ってきてくださいました。

(太田 記)

**自然保護部 豊川稻荷から名古屋城他① 9月7~8日**

CL 石野(博)、SL 上野・松本(正) 参加10名

9月7日 大阪駅 7:15→ 9:58 名古屋→ 11:54 豊川

9月8日 豊川 8:42→ 名古屋城~徳川園~三菱UFJ資料館~名古屋港

1 日目は到着した名鉄豊川駅構内のきしめんで店昼食をかき込み、徒歩 30 分程で豊川海軍工廠跡へ、ここは現在、広大な芝生広場の平和公園として豊川市によって整備されている。一角に「平和交流館」と言う資料展示館がある。当時は 200 ヘクタール程の海軍機銃弾丸を造る工場東洋一を誇っていたとの事。案内してくれた 83 歳になるボランティア活動方の説明では、昭和 20 年 8 月 7 日大空襲で従業員約 2500 人が爆撃で亡くなったとの事でした。その中には、その方の肉親や勤労働員の中学生・女学生多数が含まれ、多くは爆撃から逃れるため工場建屋から、はなれた正門に集まっていたそうです。ところが、その避難している群衆に向かって米軍機の機銃掃射が浴びせられました。正に、意志を持った殺人が終戦間際に非情にも行われたと思うと、暗澹たる思いにさせられました。また、勤労働員されていた当時 13 歳で亡くなった女子生徒は、ほどなく、死が訪れる事を予想し日記に、両親あてに先に逝く不幸を詫げる言葉を書き残していました。

この後、豊川稲荷に移動参拝。

2 日目 名古屋市市政資料館、名古屋城、三菱UFJ 銀行貨幣資料館、南極観測船ふじを見学市政資料館では検事取り調べ室・法廷・独房が再現展示されていて面白かった。銀行資料館もまた、興味を引きました。古代ギリシャアレキサンダーのレリーフのあるコイン、日本の大判・小判、千両箱は千両入ると重さ 20 kg、秀吉が造った大判が世界最大の金貨だそうです。

以上印象が深かった部分のみ。

山田仁司 (記)

## 自然保護部

### 豊川稲荷から名古屋城他②

9 月 7～8 日

CL 石野 (博) SL 松本 (正) 上野 参加 10 名

9 / 7 (土) JR 大阪駅 07 : 15 → 豊川駅 → 豊川海軍工廠跡  
→ 豊川稲荷 16 : 40

9 / 8 (日) 名鉄豊川駅 08 : 38 → 尾張名古屋城 → 名古屋市市政資料館  
→ 三菱UFJ 銀行貨幣資料館 → 徳川園 → 名古屋港南極観測船ふじ →  
近鉄・名古屋駅 17 : 30 解散

青春 18 切符利用のはずが、「帰りの青春 18 切符は買えませんでした。」とのセンサーショナルな CL のカミングアウトに驚くも、行程をスタート。天気は良好、紆余曲折しながらも、1 日目行程終了。2 日目の切符について、夕食後のミーティングで協議。大勢として、皆で負担しようとなったが、当日の各自切符購入時には、「本当は、こんな切符代いらなかったのに。」という声が漏れ聞こえてきた。午後からは雨の予報であったが、晴天。盛りだくさんの行程が、名古屋市交通局ドニチエコ切符のお陰で、各施設で入場料の優遇があり、活用できた。見学地は、どこも

見ごたえがあり、満足できる内容であったが、ミステリーツアーさながらのハラハラドキドキの2日間であった。  
(上野 記)

## 教育部 沢登り(比良山系白滝谷) 9月8日

参加全8名 (CL 高桑、SL 家納、木村、松本、南、網、伊藤、森永)  
07:00 大阪梅田→08:30 坊村P着→09:00 P発→10:00 入溪→11:40 白石谷分岐  
→13:30 白滝→15:00 夫婦滝→17:15 P着→18:00 P発→22:20 JR 大阪駅 無事解散

6/29 予定の沢登りが中止となり昨年より沢登りデビューを熱望されていたメンバーの気持ちを通じたのか9月に入り記録的な残暑が続き、絶好の日和を迎え、中止の時のメンバーを再度募り実施した。

教育部の沢登りには初参加のメンバーが4名いたが、これまでの岩登り講習などで白滝谷クラスなら対応可能と判断し、全員がその旨理解して安全確保に注意を払った。又、危険個所ではお助け紐や簡易ビレイを適時処置して安全遡行を楽しんだ。水量は少し多く、ドボーンポイントでは敢て、お助け紐を出さずにいると期待に応じてドボーンと落ちる人も多くとても楽しかった。それが次の糧になればと思う。

(高桑 記)

## 土曜山行 北八ヶ岳 9月14~16日

CL 湯浅、SL 乾・願野・網 参加16名

9/14 大阪駅前出発 7:00→大河原峠 14:10 到着

大河原峠 14:30→双子山 15:00→双子池ヒュッテ 15:40

初めての縦走でワクワク 夕食は天ぷら、蕎麦、豚汁と超豪華でした。

明日の3時半起きが心配で星空も見ず直ぐに就寝しました。

9/15 双子池ヒュッテ 4:30→亀甲池 5:25→横岳北峰 7:10→南峰 7:30

1班 11名(展望コース)と2班 5名(林間コース)に分かれる。

1班 北横岳ヒュッテ 7:40→雨池峠 8:50→縞枯山 9:40→茶臼山 10:15 (昼食)  
→麦草峠 11:50→ニュー 14:25→中山峠 15:45→黒百合ヒュッテ 15:50

2班 北横岳ヒュッテ 7:40→坪庭 8:25→五辻 9:15→出逢いの辻 9:25→オトギリ  
平 10:00→麦草峠 10:30(昼食)11:00→白駒入口 12:30→ニュー 14:10→  
中山分岐 15:20→黒百合ヒュッテ 16:00

ヘッドランプをつけ出発 北横岳は青空で素晴らしい景色でした。麦草峠まで長く感じましたが整備されており歩きやすく苔の緑も色鮮やかで癒され、ちまき弁当も美味しかった。一番期待していたニューはガスで真っ白 富士山見えずガッカリ。

数分でしたがニューは心地良く、また行きたいです。

9 / 16 黒百合ヒュッテ 6:30→東天狗岳 8:45→西天狗岳 9:10→第二展望台 10:35  
→第一展望台 11:25→唐沢鉱泉 12:25(温泉) 13:25→諏訪湖 IC 付近のドライ  
ブインで昼食→大阪駅前着 20:15

朝から小雨で雨具を着用して出発 ゴロゴロした岩場でリーダー、サブリーダーの緊張感が伝わり全員丁寧に安全確保に努めました。唐沢鉱泉到着時には、全員笑顔で、きたろうのチームワークの良さを改めて感じた山行でした。

(南 記)

### 有志山行 弓折岳～笠ヶ岳 8月19日～22日

CL 塚 SL 願野・三嶋 (参加者9名)

8月19日(月) 京都八条口 11:20 発→高山濃飛バスセンター16:15 着、16:40 発→  
国立公園口 18:10 着 宝山荘別館 (泊)

8月20日(火) 宝山荘別館 7:00 発→穂高温泉ゲート 7:10→わさび平小屋 8:46→  
鏡平山荘 13:00 着 (泊)

8月21日(水) 鏡平山荘 5:50 発→弓折乗越 6:42→笠新道分岐 10:24→  
抜戸岳 11:08→笠ヶ岳山荘 11:50(昼食)→山頂 12:33→  
笠ヶ岳山荘 12:54 着 (泊)

8月22日(木) 笠ヶ岳山荘 4:30 発→抜戸岳 5:10→笠新道分岐 5:53→杓子平 7:13  
→笠新道登山口 11:30→穂高温泉ゲート 12:37 着 (温泉)  
ロープウェイ乗り場 14:55 発→高山濃飛バスセンター16:31 着  
→高山駅 16:50 発→大阪 22:10 着

雨の中、新穂高温泉から小池新道を登り初日の宿泊地の鏡平山荘を目指す。山荘に着くと雨も上がり、鏡池に映る逆さ槍、穂高連峰の姿が素晴らしかった。

二日目も雨の中を出発。ライチョウとも遭遇し、咲くお花も夏から秋のものに変わりつつあった。大きな抜戸岩を通り抜け、ハイマツ帯のアップダウンを繰り返して笠ヶ岳山荘に到着。ケルンが並ぶ山頂からの展望は残念ながら望めなかった。

三日目も晴天を期待したが、またしても雨。傾斜の急な長い笠新道は川のようになっていたので慎重に下った。新穂高温泉の濁流にも驚く。売店の方の話だと小池新道は通行止めになっていたそうだ。日程がずれていたら山行も中止になったかも知れず安堵した。ゆっくりお風呂につかり山行を終えた。

ずぶ濡れの山行だったが充実した四日間だった。皆様お疲れ様でした。

(入山 記)

**有志山行 梅海新道(朝日岳) 8月27-29日 CL:乾 参加5名**

8/27 大阪 8:40-金沢-糸魚川-平岩-14:00 タクシー-蓮華温泉ロジ (泊)

8/28 蓮華温泉 5:10-瀬戸川 6:25-白高地沢橋 7:40-花園三角点 9:20  
-吹上のコル 12:15-朝日岳 13:10-朝日小屋 14:00 (泊)

8/29 朝日小屋 6:10-イブリ山 7:40-4合目 9:15-一合目 10:10-吊り橋 10:30  
-北又小屋 10:40-タクシー-11:45-泊駅 13:00-大阪

8/27 ロッジチェックイン後、開放感があふれる秘湯(薬師の湯)を堪能!

8/28 北アルプスと日本海をつなぐロングルートは雨の中でスタート。

兵馬ノ平まで順調に進む。白高地沢の橋までも不安なく快調♪カモシカ坂にさしかか  
ってからスピードが落ちた。花園三角点あたり視界が開けてきたので緊張した気  
持ちは緩む。道沿いに咲き誇る花畑に心を奪われた!ここに来たかった♪

ここから雨粒が大きくなっていき、降り続く雨で登山道は川となった。沢渡の所は  
なくなり、もはや滝のぼりのワイルド冒険。次第に体も疲れてきて、もうすぐ吹上  
のコルと思うと力が湧いてきたがしかし、コルの吹き上げてきた暴風と横降りあら  
れに体温を奪われていく!休憩せずに急ぎ足で小屋に向かった!

8/29 朝の大雨と暴風警報が発令されると聞かされ、急遽ルートを変更し、イブリ  
山経由し、北又小屋へ。濃い霧の中、黙々と歩き続け、急に視野が広がったお花畑に  
興奮状態。8月末なのにそれでもたくさんのお花が咲いている。山一面のキンコウ  
カ、カライトソウ、チンクルマ。。夕日の原の絶景に再訪を誓った!イブリ山手前  
の岩場を越えると山頂だけ、なにも見えない。10合目~一合目までひたすら下  
っていくと吊り橋だ。ここが終着点と思ったがまさかの階段。一気で疲れたけど、  
不完全燃焼の山行だが、心に野望の炎をつけられた。絶対くるからね♪

(清水 記)

**有志山行 梅池自然園から猿倉荘まで 9月6-8日 CL:清水 参加者2名**

9/6 大阪 6:30-金沢-糸魚川-南小谷、バスにて梅池高原 梅池ヒュッテ (泊)

9/7 自然園 5:10-天狗原 6:20-白馬乗鞍岳 8:05-白馬大池 8:50-大池 9:30  
-船越ノ頭 10:30-小蓮華山 11:40-三国境 13:00-白馬岳 14:00 (泊)

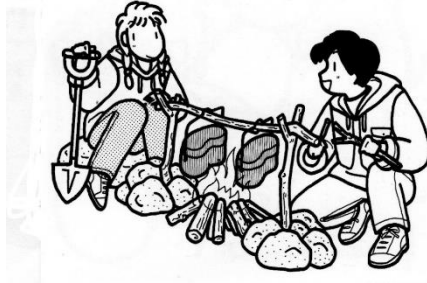
9/8 白馬山荘 5:30-避難小屋 6:30-白馬尻小屋 9:00-猿倉荘 10:00

バス 10:15-白馬駅 12:21-大阪

会報を見て、思い立ったプランを実施。行けるどころまで行けばよいと安易な考え  
でスタート。天気が味方のお陰で天狗原まで順調、その後は地獄を味わった(笑)。

白馬乗鞍岳の岩と石だらけの急坂に闘志喪失。大池山荘で大幅の休憩時間を取り、これから先をどうするかあらゆる情報収集後、続行！坂さえを登れば、大丈夫だと信じ、また、滅多にないよいお天気が後押ししてくれた。船越ノ頭の眺望が勇気を与えてくれた。小蓮華山の気持ちのいい稜線歩きは最高に感じた。三国境と白馬岳の間の急な岩場の止めに完全にロックアウト！ここさえを乗り越えれば、白馬王子が笑顔で迎えてくれた！山頂に立った瞬間に笑と涙が零れた！

拇池ルートを往復予定だったが台風 15 号はどう影響が出るか現場にて決めるだが、最短ルートで大雪渓を下る事に。もう岩場はこりごりですが、大雪渓の秋道もすごく怖かった。「落石」より「滑落」注意。恐怖度は 100%抜群です！何よりも生きて帰れた事に感謝！  
(清水 記)



ターブルドート 赤目四十八滝 9月7日 CL 山口 SL 濱田 参加 12 名  
歩行距離 6.6km(往復)、歩行時間(休憩含む) 4時間 40 分

赤目バス停 9:25⇒赤目四十八滝門前界限(ルート説明、準備体操)⇒溪谷入口(日本サンショウウオセンター)⇒千手滝(千手茶屋)(休憩)⇒岩窟滝(昼食)⇒  
⇒日本サンショウウオセンター⇒赤目四十八滝門前界限(トイレ)解散

当初、滝の終点から落合バス停まで、足を延ばすコースを考えていたが、バスの本数が少なく、バスの時刻を気にしながら、あせって転倒などしない様にとのリーダーの判断で、滝終点から往復するコースと決まった。

“溪谷沿いに滝を見るコース”だが、多少の登り下りもあり、地面が濡れてすべりやすい箇所もあり、油断禁物であることは、言うまでもない事だが、実際、事故でレスキュー隊員たちに担架で運ばれていた方がいた。

我々きたろう一行は、参加者の皆様のご協力もあり、全員無事に戻って来れ、本当に良かったです。

事故の発生によって、ここが緊急連絡ポイントがある程の“危険な所”であったのだと遅ればせながら認識新たに。

滝めぐりを含め、どんな山行も例外なく、常に緊張感を持って臨まなければならない事を改めて思わされました。  
(濱田 記)